

特集「人権・多様性社会」について考える その4

こども食堂 こっこ

伊勢丘交流館で毎月第1・3土曜日（11時～14時）に子ども食堂が開かれています。代表の渡邊葉子さんは、ご自身が幼少期に近所の人に良くしてもらった経験から、地域に恩返ししたいという思いで2021年8月にご友人たちと子ども食堂をスタートされました。

初めはご自身で営まれている飲食店での活動でしたが、徐々に利用者が増え、今年2月から場所を伊勢丘交流館に移しています。



左から2番目が渡邊さん

「子どもたちの笑顔が一番の喜びであり、自分たちも楽しみながらやっている」という渡邊さんは、給食での人気メニューを取り入れるなど、子どもたちが喜ぶような食事を提供されています。

子ども食堂から広がる地域の輪

「子ども食堂は生活困窮家庭の支援だけでなく、居場所作りや地域とのつながりの場にもなれば」という思いから、誰でも利用できるようにされています。

子どもから高齢者まで、顔の見える関係づくりをめざして、地域での支え合いの輪が少しずつ広がっています。

「人権・多様性社会」を考える機会に

「東部入れこみ情報」では、「人権・多様性社会」について特集記事を連載します。考え合う機会としてお読みいただけましたら幸いです。